



水産情報速報版

H18.5.19 1192
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 平成17年の漁業・養殖業生産量を公表 過去10年間で最低の571万9千トン

農林水産省大臣官房統計部ではこのほど、平成17年漁業・養殖業生産統計(概数)を公表しました。全国の漁業・養殖業の生産量は571万9千トンを、前年に比べ5万7千トン(前年比1.0%)減少し、この10年間で最低となりました。概要は次のとおりです。

海面漁業の生産量は441万2千トンを、前年に比べ4万3千トン(同1.0%)減少しました。これは、サバ類、カツオ、サンマ等が増加したものの、カタクチイワシ、マアジ、スケトウダラ、ホッケ、ホタテガイ、スルメイカ、サケ類が減少したためです。

海面養殖業の収穫量は121万1千トンを、前年に比べ4千トン(同0.3%)減少しました。これは、魚類養殖、海藻類養殖は増加したものの、貝類養殖等が減少したためです。このうち、魚類養殖については26万9千トンを、前年に比べ7千トン(同2.7%)増加し、価格下落の影響により養殖尾数を減らしたマダイ等で減少した一方で、主産地である四国・九州地域においてブリ類が増加したためです。

内水面漁業・養殖業の生産量は9万6千トンを、内水面漁業でサケ・マス類やシジミが、内水面養殖業でウナギがそれぞれ減少したことから、前年に比べ1万トン(同9.6%)減少しました。内水面養殖業主要4魚種(マス類・アユ・コイ・ウナギ)の収穫量は4万2千トンを、前年に比べ4千トン(同8.7%)減少しました。

2. 津波・高潮対策でガイドラインを作成

水産庁、農林水産省農村振興局と国土交通省の河川局、港湾局ではこのほど、「津波・高潮対策における水門・陸閘(りっこう)等管理システムガイドライン」を作成しました。

このガイドラインは、津波・高潮といった災害時に、地域を守るために必要な堤防などの開口部である水門・陸閘を確実に閉鎖するための対策を講じることを目的にしたもので、作成には学識経験者で構成する「策定委員会」を設置し、水門・陸閘などを安全・迅速・確実に閉鎖するための設備、体制、運用などを構築、もしくは改善するための必要事項を取りまとめました。

国土交通省、農林水産省では、可能性を指摘される大規模地震の発生時に備え、水門などの海岸保全施設の一元的な遠隔制御を行うための拠点となる「津波・高潮防災ステーション」の整備を進めていますが、今回始めて、自動化・遠隔操作を行うための考え方や、安全・迅速・確実に閉鎖する考え方を示したガイドラインを策定したものです。ガイドラインは、国土交通省河川局のホームページで閲覧及びダウンロードができます。HP = <http://www.mlit.go.jp/river/kaigandukuri/suimon/index.html>

3. 水産物の市況について(平成18年4月及び5月)を公表

水産庁ではこのほど、東京都中央卸売市場における平成18年4月(3月21日～4月20日集計)の市況と、平成18年5月の市況見通し(前月との比較)を次のとおり公表しました。

平成18年4月の全体の市況=東京都中央卸売市場における総入荷量(水産物の生鮮品、冷

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

凍品、加工品の合計)は、前月より増加となり、卸売価格(水産物全体の1^{kg}当たりの平均価格)は横ばいに推移しました。

平成18年5月の主要品目の市況見通し=「まいわし(生)」: 入荷量は前月よりやや増加すると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。(漁は低調ながらも若干上向き。) 「さば(生)」: 入荷量は前月と比べ大きな変化はなく横ばいと見込まれ、卸売価格も横ばいに推移すると見込まれます。(各地とも魚体は小型サイズ主体。) 「あじ(生)」: 入荷量は前月と変わらず横ばいに推移すると見込まれるものの、卸売価格は需要期を過ぎたことから、やや弱含み推移すると見込まれます。(生鮮の主要漁場は、能登半島西側～山陰沿岸だが水揚げは低調。) 「まぐろ(生・冷)」: 入荷量は前月よりやや減少すると見込まれるものの、卸売価格は需要期を過ぎたことからやや弱含みに推移すると見込まれます。「かつお(生)」: 入荷量は前月より増加すると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。(現在の漁場は八丈島周辺海域。)

4. 全国漁業協同組合学校が階層別研修で受講生募集

全国漁業協同組合学校では、JF合併等に資する人材育成と実務実習を目指した階層別研修を、昨年度に引続き開催します。この研修はJFグループの役職員が対象で、各コースの開催予定は次のとおりです。

監査士養成(集中演習)コース 期間: 7月10日(月)～7月20日(木) 内容: 法規・会計学・監査論の3科目 会場: 組合学校 研修費: 8万円

販売事業コース 妻 小波教授と学ぶ「中国への水産物輸出戦略と実践」 期間: 9月4日(月)～9月8日(金) 内容: 東京での講習と大連・青島の水産加工工場等の視察 研修費: 約20万円

指導事業コース 期間: 未定 テーマ: 地域漁業を構築する営漁指導の課題と手法(仮題) 問合せ先: 全国漁業協同組合学校 TEL: 04-7144-8125

5. 新刊図書紹介 「旬の魚を食べ歩く」 斉藤 潤 著

本書は、JF全漁連の機関誌「漁協(くみあい)」に連載された「ふるさとの魚食 につぼんの食」を核に、大幅に加筆訂正したものです。

全国の美味しい食べ物を知り尽くした、著者が紹介するその土地ならではの料理は、サクラエビの鍋「沖あがり」、アイヌの伝統サケ料理「チタタップ」、アンコウ鍋の郷土料理「どぶ汁」、アジのひね寿し「さんなみ」などが掲載され、読者に「その土地の空気」をも運んでくれる一冊となっています。

また、巻末の掲載データ(宿・店舗)の紹介も見逃せない情報です。

定価: 746円(税込) 新書判240頁 発行所: 株光文社販売部 TEL: 03-5395-8114

6. 会議・日程(5月23日(火)～6月5日(月))

- 既報分省略 -

5月26日(金) 県遊漁船業協会 = 通常総会 (県水産会館)

5月30日(火) 県漁業振興基金 = 榛南地域栽培漁業推進協議会 (地頭方漁協)

5月30日(火) 県漁連/県信漁連 = 地区別組合長会議 (下田市漁協)

5月31日(水) " = 地区別組合長会議 (県水産会館)

6月 2日(金) 県漁連 = 正副会長会議・第2回理事会 (")

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう